



夢に向かって挑戦すること

たかはる 大和田 貴治さん (福島県立田村高校3年)

2012年(平成24年)8月27日、広野町での授業が再開し、その登校の様子が2012年10月号で表紙に映し出されている。その表紙を飾った、大和田貴治さん(当時小学3年生)。あれから9年という時を経て、自分と向き合い、挑戦し、陸上において福島県を代表する選手に成長した大和田さん取材した。



2012年10月の表紙を飾った大和田貴治さん

成績

- 2018年(平成30年)(四倉中学校3年)
→全国大会出場
- 2020年(令和2年)(田村高校2年)
福島県高校新人体育大会陸上競技800m、1500m優勝
- 2021年(令和3年)(田村高校3年)
福島県高校体育大会陸上競技800m優勝
1,500m第2位
東北地区高校体育大会陸上競技800m第3位
(全国高校総体出場)



2010年5月号に登場した貴治さんの姉 瑠奈さんと母 成美さん

「広野から世界へ」

2つ上の瑠奈さんの影響で始めた陸上。実家の近くには、現在、福島駅伝広野町代表のキャプテンを務める半澤悠司さんやインターハイを優勝し、箱根駅伝にも出場した半澤黎斗さんが住んでおり、走ることに身近な環境が整っていた。

小学校2年生のときから姉の瑠奈さんと町の福島駅伝の練習にも参加した。当時を振り返り、母の成美さんは、「泣きながら必死に走っていました」と話してくれた。

その後、順調に力をつけ、中学3年生の時には、全国大会に出場するまでに成長した。

高校に進学する際に背中を押してくれたのは、尊敬する半澤黎斗さんの存在だった。親元を離れ、半澤さんの活躍している姿をみて広野町、いわき市を離れ、果敢に「挑戦」することを決めた。高校は、田村高校の佐藤修一監督に憧れて入学。また、田村高校の県外ではなく県内の選手を育成していく方針にも惹かれ、入学を決めた。

「朝練で8割が決まる」という監督の言葉を信じ、高校2年に入ってから毎朝午前5時に自主練に励み、コロナ禍の状況でも時間を管理し、今の自分に必要な練習について考え、タイムを伸ばしていった。そして、5月に行われた福島県高校体育大会陸上競技800mでは、見事1位、6月の東北大会では、3位となり、7月に福井県で開催される全国大会の切符を勝ち取った。今後の夢について、大和田さんは、「大学でさらに力をつけ、トラックで世界と戦える選手になりたい」と決意を話してくれた。

「広野から世界へ」

大和田さんの夢への挑戦は、まだ始まったばかりだ。